

日本医療企画「地域介護経営 介護ビジョン」

2019 年 12 月号 58 ページ



昔ながらの銭湯の雰囲気そのままに、壁面が富士山のタイル画になっており、浴槽も広々している

**稼働率9割を誇る
人気のデイスサービス**

ヒューマンライフケア小松湯は、東京都板橋区南常盤台の閑静な住宅街にある。長年地域に親しまれた銭湯を改装して誕生した。デイスサービスとしての開設は2001年。定員は33人で、稼働率は常に9割を超える。人気の秘密は、銭湯を改装した大きな浴槽にある。「ゆったり入浴できるお風呂が」

番の自慢です。月に何回かは入浴剤や季節の果物、野菜などを入れた「変わり湯」のイベントを実施しています。ゆず湯や菖蒲湯などの変わり種で、大根湯やりんご湯などを行い、これが毎回好評で、キャンセル予防にもつながっています」と同施設管理者兼生活相談員の中原真紀さんは胸を張る。利用者世代は若い頃から銭湯に通っていた人が少なくない。実際、近所では全盛期に約10軒の銭湯が営業していたという。そのため、「普通のデイスサービスには行きたくないが、ここなら通いたい」という人が多く、利用者の獲得につながっている。同施設が銭湯だった頃に通っていた人もいるそうだ。

「意外に遠方からの利用者さんも多いです。板橋区では、大きな浴槽を備えたデイスサービスが少ない」

同施設を統括するヒューマンライフケア株式会社では、認知機能の維持改善に力を入れている。施設に通い続けられる環境づくりのため、認知症予防プログラムに重点的に取り組んでおり、広い浴槽での入浴との相乗効果も期待される。「自宅では何カ月も入浴を拒否し

からかもしれません」と、中原さんは説明する。

「お風呂にはできるだけゆつくりくつろいで入っていただけのようにしています」と話す中原さん。午前中に約30人の入浴を1日平均10人の職員で対応している。最近では男性の利用者が増え、男女比が5:5の日もあるという。要介護度の平均は約2・8で、全体の3割を要支援の利用者が占めている。そうしたなかで、入浴時の転倒防止には注意を払っている。

同施設を統括するヒューマンライフケア株式会社では、認知機能の維持改善に力を入れている。施設に通い続けられる環境づくりのため、認知症予防プログラムに重点的に取り組んでおり、広い浴槽での入浴との相乗効果も期待される。「自宅では何カ月も入浴を拒否し

ていた認知症の方が、小松湯に来て興味を示し、今では定期的に入浴できるようになりました。ご家族から感謝の言葉をいただき、私たちも感激しました」と、中原さんは笑顔で語る。

特に、同社独自に取り組んでいるのは「伝統文化レクリエーション」である。これは、赤べこや風鈴、でんでん太鼓、投扇興など、日本の伝統文化に因んだ物を作制作する。取材当日、利用者は投扇興づくりに取り組んでいた。

「毎月、キットが本社から届きます。現場の職員としては、レクに幅ができるので助かっていて、利用者さんとも話すきっかけになります」と中原さんは語る。銭湯由来の風呂を中心に、利用者を楽しませ、飽きさせない工夫の数々が同施設の人気の秘密とさえいえる。

事例 2

ヒューマンライフケア
小松湯
(東京都板橋区)

地域に親しまれた銭湯を改装 「変わり湯」でキャンセルを防ぐ

ヒューマンライフケア株式会社
ヒューマンライフケア小松湯

〒174-0072
東京都板橋区南常盤台2-9-2
TEL: 03-5917-9126
URL:
<http://human-lifecare.jp/>



ヒューマンライフケア小松湯の施設長兼相談員の中原真紀さん(右)、相談員の加藤さやかさん

